

台湾葬儀業の革命家 金寶山

冠婚葬祭は我々の生活に欠かすことのできない重要な儀式であるが、葬儀業は参列者とコミュニケーションをとりながらサポートするため、とりわけこうした儀式と緊密な関係にある。特に華人社会において死や葬儀について話すことはタブー視される傾向がある中、金寶山事業股份有限公司(以下、金寶山)は葬儀を本業としており、日々人々の死に向き合っている。業界に先立ち様々な前例を打ち出し、台湾の葬儀産業を改革しており、将来的にはアジア市場に向けて事業を拡大していく予定である。今回は、曹光潔董事長を訪ね、経営理念や今後の事業展望についてお話を伺った。



金寶山事業(股)有限公司 曹光潔 董事長

—台湾葬儀産業の革命家

台湾での埋葬はこれまで土葬が主流でしたが、ここ30年間で徐々に火葬が主流となりました。こうした変化の過程には、我々葬儀業者の工夫や努力があり、中でも当社は同業他社に率先して産業改革に携わってきました。

弊社は1977年に曹日章氏によって、当初は「金山安樂園」という名前で設立されました。葬祭とは生命を扱う事業であり、人々の記憶に残すことに価値観を見だし、生きている人々を中心に葬儀を行うという当社の3大方針が、台湾の葬儀産業に新たな風をもたらしました。

これまでの伝統的な社会において、葬儀は故人を中心に行われる儀式でしたが、当社では葬儀は生命を扱う事業の延長であると考えています。出棺及び埋葬等様々なシーンにおけるハイクオリティな儀式や整備された霊園を提供し、葬儀を如何に記憶に残る記念価値のあるものにするかという点について、常に追求しています。故人をしのぶことができる理想的な霊園を提供し、また霊園を公園のようにデザインし、芸術の要素も取り入れ、暗くて古臭い葬儀のイメージを払しょくしています。

—ブランドイメージの確立

当社は台湾の葬儀業の風習を改革するために、様々な取り組みを進めており、ハード面にも惜しみなく投資しています。現在、新北市金山区にある霊園に4つの納骨堂(内3つは運営を開始)がありますが、敷地内に総計2,500台収容可能な駐車場を設置しており、台湾で最大規模を誇っています。また霊園内には、カフェ、レストラン、空調設備、室内エレベーター等、これまで同業他社では提供していなかった様々な施設・設備を提供しています。

現在、既に運営を行っている納骨堂は、金寶塔、日光苑、萬佛塔の3つです。金寶塔は弊社が初めて建設した納骨堂であり、1988年に落成し運用を開始しました。当納骨堂は、台湾の寺・神社建築の権威である李重耀氏にデザインをしていただき、屋上及び外壁には日本から輸入した金のレンガ及びタイルを使用しています。広々とした清潔で明るく温かみのある空間で、近年台湾におけるモダンでハイテクな納骨堂建築として、国家建築設計賞を受賞しています。

日光苑は、弊社が手掛けた2番目の納骨堂です。生命を太陽に見立て、ヨーロッパ調のスタイルを採用しており、金寶塔との差異化を図っています。モダンなデザインの納骨堂は、一般的な正方形のロッカー状のものとは異なり、中をクリス

台湾トップ企業

ルガラスで丸い形にデザインすることで、自由に装飾することが可能で、故人への思いを伝え、偲ぶことのできる空間を提供しています。

萬佛塔は2015年に落成したばかりの最も新しい納骨堂です。弊社が10年間かけて手がけた建築作品であり、全体的な外観は国際的な彫刻家である朱銘氏にデザインをしていただきました。宗教、芸術、建築の各要素を取り入れた納骨堂であり、弊社が今後の文化創意産業における葬儀産業を牽引していくという思いが込められています。

こうした特色あるモダンな納骨塔の建設の他、18年の年月を費やして整備した私立玫瑰園公墓や人々の目を引く非常に印象的な彫刻モニュメント千佛石窟（岩壁に仏像を彫刻）等、こうした建築作品から醸し出されるオーラは壮観であり、芸術的な価値もその他同業他社をはるかに上回っています。

台湾における葬儀業の年間売上高は少なくとも500億元に上りますが、弊社のシェアはその僅か1%にも達していません。しかし、仮に弊社を自動車で例えるとしたら、ベンツのような高品質な地位を確立していると言えるでしょう。

芸術で表現する永久不変

ダイヤモンドは永遠を意味し、結婚式と言えばダイヤモンドという考え方が定着しているのと同様に、葬儀は生命について考える事業であり、永遠を意味する何かが必要であると考えていました。そこで弊社が辿り着いた答えが芸術です。納骨堂の建築や霊園のデザインにこうした考え方を反映させており、実際に彫刻品も設置しています。知り合いである彫刻家の朱銘氏に主にデザインをお願いしており、上述した有名な千佛石窟の他、大型彫刻作品を弊社霊園の随所に見ることができます。

また、上述した金山区の霊園の他、中国では彫刻芸術公園の整備も行っています。桂林の「愚自樂園」及び上海の「月圓園」は、弊社が中国で手がけた力作と言えます。愚自樂園は、敷地面積約667ヘクタール、敷地を囲む外壁だけでも32キロメートルに達します。また、月圓園は約87ヘクタール、月湖と呼ばれる上海で最大の湖があります。

中国桂林の愚自樂園では1997年から国際的な彫刻作品制作シンポジウムを定期開催しています。世界47カ国から140名の優れた彫刻家を桂林に招き、創作活動の促進・交流を実施しており、互いに刺激し合いながら様々な彫刻作品の制作ができる環境を提供しています。

海外事業への展望

中国は華人社会における最大の葬儀市場と言えます。現在弊社では上述の彫刻公園への投資の他、中国の葬儀市場への参入を計画していますが、中国市場での成功には、日本との連携が鍵を握っていると考えています。弊社は主にハード面においてその強みを有していますが、日本の優れたソフト面との連携は最強の武器になると考えています。なお、現在、日本の社団法人日本納棺士技能協会の木村代表理事と共同で納棺師の技術指導を進めています。まずは日本で人材育成を進め、将来的には日本市場で培った事業モデルを中国市場に応用していく計画です。

日本市場には既にビジネスパートナーがいますが、今後は更に多くの事業機会を模索していく予定です。特にハード面において、建材や葬儀で使用する様々なアイテムを日本から輸入していますが、こうした方面で更に日本企業との連携を強化し、事業拡大に繋げていきたいと考えています。より一層高品質なサービスを提供しながら、継続的に事業機会を創出していきたいと考えています。

ありがとうございました

金寶山事業(股)有限公司の基本データ

会社名	金寶山事業股份有限公司
董事長	曹光潔
設立	1977年
資本金	5億元
売上	20億元
従業員数	300名
事業内容	葬儀業

注)2016年4月時点のデータによる
出所)公開資料及びヒアリングよりNRI整理